

授業科目 国際疾病分類論

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	情報
坂井 さなえ、齋藤 翔太		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	○	○	○	◎	
【概要・一般目標：GI0】 疾病の分類を中心に、その概念や種類・目的、診療録に記載された内容について学習する。「国際疾病分類」の定められたルールに基づいて、分類コードをコーディングするための理論と技法も学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1. 国際疾病分類（ICD）の歴史を理解した上で、意義・使用目的について解説できる					
2. ICDの基本体系および主要病態・原死因選択ルールを理解した上で、適切なコーディングができる					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	国際疾病分類（ICD）と我が国での利用			1	
2	ICDの歴史			1	
3	ICDの現状と課題			1	
4	その他のICDファミリー			1	
5	主要病態の選択ルールおよび原死因選択ルール			2	
6	原死因コーディング			2	
7	ICDの実際の利用			2	
8	ICDの使用上の注意点と問題			2	
9	ICD以外の疾病分類、処置分類			2	
10	診断群分類（DPC）とのかかわり			2	
11	コーディングの方法1			1,2	
12	コーディングの方法2			1,2	
13	コーディングの方法3			1,2	
14	コーディングの方法4			1,2	
15	まとめ			1,2	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	診療情報管理士テキスト 診療情報管理 IV 専門・国際疾病分類法編 第6版 (2014.7)			社団法人日本病院会	2014・4,200円＋税
	疾病、傷害および死因統計分類概要 ICD-10 (2003年版) 準拠 第2巻内容例示表		厚生労働大臣官房 統計情報部	財団法人厚生統計協会	2006・8,000円＋税
参考書	疾病、傷害および死因統計分類概要 ICD-10 (2003年版) 準拠 第3巻内容例示表		厚生労働大臣官房 統計情報部	財団法人厚生統計協会	2006・9,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席状況、学習姿勢、課題、レポート、試験に基づき総合的に判断する。		テキストをベースに適宜、板書・視覚教材を援用しながら講義を行う。講義外の自主的な学習を推奨する。 診療情報管理士認定試験を受ける者はICD-10を購入する必要がある。講義進行や他者の学習の妨害行為を行う者に対しては単位を認定しない。			